

# 活彩!保健大学だより

AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

第18号/平成20年7月28日発行 青森県立保健大学広報誌



平成19年度 卒業式



平成20年度 入学式



金曜料理教室



オープンキャンパス

## C O N T E N T S

学長挨拶	2	自治会・サークル活動紹介	15
独立行政法人化/栄養学科の新設	3	就職関係報告	16
新入生歓迎挨拶	4	卒業記念パーティー	18
新入生のことば	6	卒業生からのメッセージ	19
上級生のことば	8	修士論文公开发表会/ウェルカムパーティー	20
新入生研修	10	青森県立保健大学学術研究集会	21
海外授業(オーストラリア)	12	オープンキャンパス/大学院・学部編入学募集	22
国際交流	13	人事異動	23
特別講義	14		

新入生のみなさんへ ～出会い・繋がり・動き出す～



青森県立保健大学  
学長

リボウィッツよし子



新入生のみなさんご入学おめでとうございます。

さて、皆さんは、看護師・保健師・助産師・理学療法士・社会福祉士・精神福祉士・管理栄養士等をはじめ、保健、医療、福祉に関する幅広い知識と各専門分野における高い専門的能力を備えた専門職を目指して本学へ入学し、喜びと期待で、夢は大きく広がっていると思います。

高齢化社会、グローバル化社会の中で、わが国も政治・経済・保健医療福祉・教育と大きな変革が求められております。本学においても、この社会のニーズに応え、今年より栄養学科を新設し、第一期生をここに迎えることができました。今こそ保健・医療・福祉が一丸となり、英知を集め、人々が健康で暮らしやすい安全な地域・社会をチームで作りに上げていける人材が求められております。

本学は、専門職として豊かな人間性と専門性を修得する大学学部教育、又博士前期課程では、高度実践力を備えた専門職業人を、博士後期課程では大学などにおける教育者や研究者の育成を目指しております。

本学に一貫する教育の理念は、ヒューマンケアを提供できる保健医療福祉の専門職の人材育成と、さらに地域・社会に貢献できる人材をめざしております。地域・社会とは、国内のみにとどまらず、世界を視野において貢献できる人材です。ヒューマンケアとは、ケアの提供者である専門職としての知識や技術のみでなく、人間とはなにが理解を示し、病気や障害をもつ人々の心の痛みを感じる人に対して思いやりと、暖かさを持って接することができる人です。皆様には、この学び舎で、のびのびと、身体と心、そして人間を鍛えていただきたいと思っております。本学での人材育成とは、まさに皆様学生にとっては、自分を鍛え育むことだと思っております。豊かな人間性は、人の命の意味、命の生理的、心理的、社会的な意味や深い知識、人間への関心と理解や洞察、これらは、人々との交流や自分を知ることなどによって培われるものです。本学での「出会い」と「繋がり」を大切にし、4年、3年、2年後には、たくましく元気に社会へと「動きだし」て行かれることを期待しております。

本学のLIVE冊子は、「いのちを学ぶ、森と木の話」で紹介されており、教職員の学生へのおもいが表出されています。本日入学された皆様方は、未来を担う大事な一粒の種です。青森県立保健大学という森は、豊かな多くの命を育む場所です。良き地に蒔かれた種が、すくすく成長し、やがて一本の幹となり、豊かな葉をつけた一本の木として成長し、やがて皆様が森の一部となり、この母校を育んでいただきたいと思います。皆さんにとって、森である本学は、ただの通過点ではなく、ぶどうの木のようにしっかりと根ざし、繋がり、皆さんが、いつまでも誇れる「命の森」でありたいと願っています。「Cherish」という英語は、「大切に育む」ことです。皆さん、Let's Cherish our Forest of Life! (共にいのちの森を育みましょう!)

毎日何か小さくても良いことを行うよう心がけてみましょう。保健医療福祉に携わる本学は、毎年「障害者のねぶた」の学生ボランティア活動を、大学全体で推奨しています。学生参加者からは、貴重な「感動」と「ドラマ」が報告されています。カリキュラムもねぶた祭り前に試験を終了し、安心してボランティア活動と祭りをエンジョイできるように計られており単位認定も可能です。是非参加してみてください。

最後に専門職を目指す皆さんには、責任が伴います。4年次は、国家試験があります。日々の学習習慣をつけ、1年次から準備していきましょう。

これから始まる大学生活は、興奮に満ちたチャレンジの時です。失敗を恐れず、大胆に未知なる可能性に挑戦し、豊かな感性と専門職としての知識と技を育ててください。

本学は、この4月1日から公立大学法人となりました。開学以来10年目の改革であります。皆さんと共に新たな飛躍へのスタートを切ることの喜びを感じつつ、皆様の限りない前途を祝します。

新たな旅立ちを契機として  
— 公立大学法人化にあたり —

公立大学法人化移行準備委員会 委員長  
鈴木 孝夫



本学は、保健医療福祉の専門職者の育成はもとより、地域に貢献する大学として平成11年4月に開学致しましたが、今日では、より新たな専門知識や能力を持ち、他の領域とも迅速に連携できる人材を育成することが強く求められております。加えて、少子化による厳しい競争的環境に対し、学生の視点に立った大学作りに取り組み、学生が「行きたい」、「行ってよかった」と思える魅力を備えた大学となることが極めて重要であります。そのため、学内組織の機動的な改編、更に資金や人員を教育研究の重点分野に配分することなどで、トップを中心とした戦略的な大学運営を可能とし、運営上の権限と責任の明確化をさらに一層図るため、青森県立保健大学は、平成20年4月、公立大学法人へ移行しました。

「何が変わるのか?」:「大学の運営のあり方」そのものです。これまで通り、高等教育の機会均等、専門職者の人材育成、地域貢献を果たしていくことに変わりはありませんが、法人化後は、学外から任命された理事を含む役員会が法人を経営するとともに、外部の有識者を含む経営審議会が置かれ、より社会に開かれた大学となります。

「学生への影響は?」: 公共性に配慮した授業料や入学料の設定を心がけ、教育面ではシラバス(授業概要案内)の充実、成績評価の明確化、教員の教育力の向上を図り、更に、就職に関するキャリア形成支援事業への取り組みを進める予定です。学ぶ喜びをたっぷり味わえる青森県立保健大学を実現します。

「県民・地域への影響は?」: これまで以上に県民に親しまれる大学、地域に溶け込む大学の実現を目指します。県民の皆さんが、いつでもどこでも高度な教育研究の成果に触れ、学ぶことができるような仕組みを作ります、地域の活性化を県民と共に取り組んでいきます。

公立大学法人化を極めて有効な手段とし、教職員一体となり、より一層の人材育成と地域に貢献できる魅力ある大学づくりを推進するものです。

北東北第一号の管理  
栄養士養成の大学として

栄養学科長  
吉池 信男



開学10年目となるこの4月、健康科学部に第4の学科となる「栄養学科」が開設されました。保健・医療・福祉の領域で重要な役割を果たす「栄養」に関して、4年後には本学から管理栄養士というプロフェッショナルを輩出することのできる体制となりました。また、教職課程を新設し、栄養教諭一種免許の取得も可能となっており、「食育」を担う人材の育成も始まります。

少子高齢化が急速に進む中で、高齢者の栄養サポート、糖尿病やメタボリックシンドロームの予防、地域に密着した「食育」の展開など、管理栄養士の活躍する場は益々広がってきています。しかし、管理栄養士の養成を行う大学は西日本には多くあるのですが、東日本、特に東北地方にはたいへん少なく、本学科は、山形県、秋田県、岩手県、青森県の4県で初の管理栄養士養成課程となります。さらに国公立大学となると、お茶の水女子大学と名寄市立大学の間の広大なエリアを埋めることとなり、おのずと青森県のみならず、広い地域において、本学科の役割や期待はたいへん高いものとなっています。

本学では、「栄養学」を学ぶ礎となる化学や英語などの教育を重視するとともに、さまざまな場で人と接し、社会に貢献できる実践家を育てるため、県内の関連施設や行政等の全面的なご協力の下、充実した臨地実習ができる体制を整えています。また、少人数(定員30名)という特徴を生かしたきめ細かな教育も大きなメリットとなっています。

さらに、大学教育においては、各教員が第一線の研究を行い、学生に「知」への探求、創造的活動の楽しさを伝え、そして将来の研究者を育てることも大切なことです。幸い、本学には大学院前期・後期課程がすでに設置されており、今後栄養学の基礎から応用までの研究をより活発化し、その成果を学界だけでなく、地域や産業界に積極的に還元しようとしています。車の両輪として教育と研究がバランス良く進むような **NEW 栄養学科** を目指しています。

## 主体的学習者を育くむ 人間総合科学演習



人間総合科学科目  
藤田 修三



ご入学おめでとうございます。入学式後の学科および人間総合科学科目紹介プレゼンテーションでは、主に人間総合科学演習（1年生ゼミ）を紹介しました。同演習で学ぶことは「大学での学び」の方法ですが、同時に本学の基本ポリシーである主体的学習者に育つ方法でもあります。主体的学習ということばは小中高等学校の指導においても見受けられますが、わかりやすくいえば、情報を整理して問題点を明確にする能力、学習目標や内容を自ら理解して行動できる能力、自ら学習して問題点を解決できる能力、成果を会話や文章で表現し、納得させる能力を学ぶということです。この能力をつけることと教養を身につけるということは同じことです。そのためには書籍、社会、友人、講義などを通して生きた知識や考え方を学び、各自の経験とを連関させて判断する能力を育む、つまりそれは自己実現といえますか、生きる自信が湧くことにつながります。人間総合科学演習はじめ人間総合科学開講科目は、みなさんが主体的学習態度を身につけられ、将来、保健医療福祉の専門職として活かし、羽ばたかれることを支援しています。

## 早く自分の居場所を見 出そう



看護学科  
深谷 智恵子



看護学のカリキュラムは、保健師、助産師、看護師の3つの国家試験受験資格の得られるものになっています。ただし、助産師のカリキュラムは、3年生で選考試験があります。看護師は、人々の健康に関するさまざまな状況に診療の補助や生活支援者の立場で関わることを専業としています。看護職は医療職に分類されますが、生活支

援ということからは、福祉の分野と協働することも多くある仕事といえます。

人々が病に侵された場合には的確な診断と治療のほかに、疲れきった身体、危機的状況で磨り減った心が癒される必要があります。そして、自らを治癒させる力が湧き出て来なければ、本当の意味での健康回復へは繋がりません。看護の力は、健康に問題を持つ人々の生活を支え、人生における病の意味を見出し、その人自身が持つ治癒力が高められるように関わることにあります。それは、本学の理念でもあるヒューマンケアに通じるものです。

新入生の皆さん、本学で学ぶ最初の一步は、コミュニケーションをとり、隣人をよく理解し、安心できる仲間を作り、大学の中に自分の居場所を見出すことです。そして皆さんが人と人のつながりの中で大きく成長されることを期待いたします。

## 今がスタート地点！



理学療法学科  
盛田 寛明



ご入学を心より歓迎いたします。新入生の皆さんは、これからの大学生活に期待し、新鮮な気持ちでいることでしょうか。どうか今の気持ちを大切に、この4年間の大学生活を、自由に伸び伸びと、悔いのないものにしてください。皆さんは、これまで長い受験生活に耐えようやく目的を果たしたとばかり、開放感に浸っているかもしれません。しかし、私の経験からすると、高校を卒業した後こそ、人生のたくさんの岐路が待っているように思えます。その意味では、まさに今こそが各人それぞれ、真の人生のスタート地点かもしれません。大学という舞台の主演は学生諸君です。ですから皆さん、さっそく行動を起こしましょう！この4年間は、皆さんが入学時にもった動機を純化し、個々人の力量や個性を伸ばす絶好の機会です。目的意識と目的達成に向けた主体性、人間としての温かい心と共感性、そして旺盛な知的

好奇心をもって学生生活を送って下さい。

理学療法学科の新入生の皆さんは、これから4年間、理学療法を深く学んでいくわけですが、理学療法は、人間とその生活を対象とする、まさにヒューマンな世界といえるでしょう。この、ヒューマンケアの精神を目指すことは、本学の教育理念でもあります。この教育理念のもと、理学療法学科の教員は、長年の臨床経験とそれぞれの専門領域を持ち、学習・生活面・研究面などで皆さんをサポートします。もし途中でめげることがありましたら、先生方に相談したり、友達同士で助け合って、充実した実りの多い学生生活を送ることを望みます。

皆さんが4年後に無事卒業し、理学療法士になった暁には、皆さんの力を必要としている人、皆さんを待っている人たちがたくさんいます。皆さん一人ひとりの力を、この理学療法の世界で思う存分発揮して頂くことを期待します。

### 役に立つ！社会福祉



社会福祉学科  
大山 博史



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本学の社会福祉学科では、生活上の困難を抱えている人に対する援助について、深く学ぶことができます。例えば、皆さんが、生活問題に直面した人と出会ったとき、どのような方法でその人を支援していくか、具体的に学びます。また、ある地域に住んでいる人々の多くが、共通する生活問題で悩んでいるとき、社会福祉の視点から皆さんがまず取るべき行動は何かを知ることができます。その一方で、それぞれの援助に限界があることや、援助の結果を予測することが難しいことも、授業の中で気付くことでしょう。

個人に対する援助がうまくいくか、集団に対する介入が功を奏するか、という帰結は、福祉の実践家にとって重要な問題となります。これは、社会福祉を取り巻く学問領域の法則や経験則によって、ある程度予測が可能で、有用な援助

技術の開発も進んでいます。しかし、福祉の現場では、不測の事態が生じることも少なくありません。現場ではそれらに対して、安全弁となる工夫も施されています。このような支援のあり方は、個人や集団に生じた様々な現象を理解し、予測・制御することにつながります。

社会福祉学科で学ぶ理論と実践は、福祉現場のみならず、広く社会に役立つ知識と経験を与えてくれます。

### 「栄養学」が世界を救う!? …そんな気概で勉学に 打ち込もう



栄養学科  
吉池 信男



ピカピカの保健大学「栄養学科」によろこそ！みなさんはいろいろな動機から本学で栄養学を勉強しようと思ひ、ご家族の支えや自身の大きな努力が実り、第一期生31名の仲間に入りました。今、日本はさまざまな健康問題を抱えています。「食育」など食生活の改善による健康づくり、糖尿病やメタボリックシンドロームに対する栄養指導、また高齢者の低栄養を防ぐための栄養サポートなどは、さらに加速していく少子高齢化と医療費や介護負担の増加を乗り切るためのカギとなるものです。また、地球全体に目をむけると、栄養失調による乳幼児の死亡やさまざまな病気が大きな問題として残っています。「栄養学」は、このような課題に対して解決の糸口となる智恵や技術を与えてくれます。「栄養」というと、“栄養素”や“調理”といったことのみが一般にイメージされがちです。しかし、栄養学はもっともっと広く、奥行き深い学問です。皆さんにとっての4年間は、学び、そして考えなくてはならないことがたくさんあり、あっという間に過ぎてもうかもしれません。時々立ち止まって、入学した時の新鮮な気持ちを思い出してください。そして、「栄養」への関心と好奇心を持ち続け、「栄養学」の広い、広い海のどこかで、プロフェッショナルとしての自分を見いだしてください。

## 個性溢れる大学生活



看護学科1年  
安田 寛女

期待と不安で満ち溢れながらこの青森県立保健大学に入学して、早くも2ヶ月が経ちました。大学生活にも徐々に慣れ始め、大学の構図もだいたい把握でき、目的の教室にも迷わず行けるようになりました。しかし、今だにA棟から食堂に行く時だけは、毎日のように逆方向の管理棟に辿り着いてしまいます。

大学生活は、サークル活動や行事など、とにかく新しい仲間と過ごす時間が楽しく充実しています。勉強も高校とは一味違い、レポートの提出が多く、また予習・復習も必要となってきて図書館の利用も多くなり、自主性・積極性に欠けるととてもついていけません。しかし、そこがまた楽しいところだと私は感じています。勉強自体はそんなに好きではありません。必死に勉強している最中に、ふと自分の将来像を思い浮かべるのが好きなのです。所詮妄想です。将来像にしっかり一歩ずつ近づいている、そんな気がして勉強もはかどり、楽しい気分になれます。

このように、私には他人と異なった一面が多々ありますが、自分なりに勉強もサークル活動もバイトも楽しみながら充実した大学生活を送っています。学年を進むにつれ、忙しさが増すと思いますが、独自のスタイルを保ちながら1日1日を歩んでいきたいと思っています。

## 新天地で再出発



理学療法学科1年  
鎌田 英一

希望や不安を抱え、生まれて初めての東北での生活をスタートさせてから、早くも2ヶ月が経ちました。保健大学へは、社会人時代に知人の看護師に聞いたリハビリの話や、実際に病院でリハビリを見て、理学療法の大切さや奥深さを知り、入学を決意しました。

入学当初、慣れない土地での生活や久しぶりの学生生活ということで、不安、戸惑い、そして寂しさを感じるが多かったのですが、学科の枠を超えた社会人出身の仲間や先生方やその他多くの人たちの支えによって、今では充実した日々を送れるようになりました。そして学生生活をより充実させてくれているものに講義があると思います。講義では、将来の目標のために必要となる専門職としての知識と技術の習得はもちろ

ん、豊かな感性を養ってくれると感じるからです。もちろん講義は楽ではありません。楽ではないからこそ、これらを学ぶことの重要性や責任を痛感し、やりがいにつながっていると思います。

この恵まれた新天地での学びを通して、医療専門職としてだけでなく、人間として成長し、社会貢献できるようになりたいと考えています。そのためには初心を忘れることなく日々努力していきたいと思っています。

## 保健大学に入学して



社会福祉学科1年  
土井 綾乃

私が保健大学に入学し、2ヶ月が経ちました。4月から新しい環境での生活が始まり、自炊を始め、1人での時間が多くなりました。その頃からずっと胸にあったのは、大学をやっているのか、生活を送っているのかなどの様々な不安と惑いでした。しかし、実際に大学に行き、いろいろな行事、新しい友人が出来るなどの出来事で徐々に不安や惑いはなくなっていきました。

これからの生活は様々なことが待っていると思います。今まで進んできた道が良かったのか、自分の行っていることが正しいのかなどの悩み事で立ち止まることや、新たな出会い、素晴らしい出来事、新しい経験があると思います。その時は、自分の中にある、やりたいこと、考えていること、将来のことをきちんと核として心の中に持ち、歩んでいきたいです。また、大学4年間という期間の中で様々な人と接し、関わり合いながら沢山のことを吸収し学び、自分を更に大きく成長させていきたいと考えています。そして将来、大学で得た知識、技術だけでなく生活の中で得た事、経験した事を生かして少しでも多くの方や地域に貢献したいと思っています。

## 新風を吹き込め



栄養学科1年  
田口 智紀

自分は新設された栄養学科の一期生となりました。栄養学科は全員で31人いて、その内女子が29人、男子が2人います。もう1人の男子はプロテイン好きの優しく熱い気持ちを持っている青年だったので、一緒にいて楽しめます。同じ男として、また、同じ野球小僧として、女性の多い栄養界に切り込んでいきたいで

す。大学生になり、両親や友達、先生や先輩に支えられて生きていくと感じる事が多くなりました。それゆえ、自分も人の役に立てるように、また、栄養学科の一期生として、後輩たちの良い手本となるように自分のスタンスで日々精進していきたいと思えます。

### 自分への挑戦

編入学生：  
看護学科3年  
塚原 光美



この4月、生まれ育った函館を離れ、不安と期待を胸に青森での生活をスタートさせました。看護学校時代には、仲間たちと共に支えあい実習や国家試験などの壁を乗り越え、多くの患者様・ご家族と出会い、看護の楽しさや難しさを感じながら自分なりの看護観の基盤となるものを作り上げることが出来ました。しかし、看護とは学べば学ほど深いものであり、人との関わりである以上、知識や技術はもちろん、豊かな人間性や感性はとて重要となってきます。“看護師”だけでなく医療専門職として、幅広い視野で物事を捉える能力を培い、そして感性やコミュニケーション能力を伸ばし、自分の看護観を成長させていきたいと思ひ、ここ青森県立保健大学への編入学を決意しました。

最初のころは、新しい環境に戸惑いや不安を感じ、また、看護師になったのに臨床経験がない学生である自分に葛藤を抱いたこともありました。しかし、同じ編入の仲間や先輩・先生方などたくさんの人の温かさに助けられ、また離れた地で頑張っている同期に支えられ、今ではしっかりと進学した目的を見据えて充実した毎日を送ることが出来ています。

編入生は3年生の授業だけでなく1・2年生や他学科の学生と一緒に講義も受けることができるため、様々な人と関わり、視野を広げるに当たりとてもいい環境にあり、たくさんの人たちとの出会いは私にとって新たな学びを与えてくれます。学ぶという環境に恵まれたこの場所で、多くのものを吸収し自分を大きく一回りも二回りも成長させ、心あるより良い看護を提供できるよう、日々努力していきたいと思ひます。

### 今の思いを忘れずに

大学院：  
博士前期課程1年  
川崎 徹大



3月に徳島の大学を卒業し、この4月から青森県立

保健大学の修士課程で学ぶこととなりました。大学院への進学は前々から考えていたことですが、徳島から遠く離れた青森に来ることになるとは思ってもいなかったというのが正直なところでした。

修士課程に進んだのは「栄養学の専門性をもっと高めたい」という思いからなのですが、教授の方々や仕事を持っている他の大学院生などの話を聞く度に自分には知識も技術も不足しているのだと痛感させられています。専門性を高めるところが基礎すらも怪しいのではないかと感じています。しかし、私は良くも悪くも“プラス思考”をしてしまう性格なので、今は「これから多くのことを吸収して大きく成長していこう」、「徳島に残っていたらこのような経験は絶対できなかった」という考えでいます。まだ論文のテーマは決まっていますが、これから始まる研究に向けて基礎を固め、自分から知識や技術に貪欲に動いていこうと考えています。

不思議な縁によって青森県立保健大学と青森という場所へ来ましたが、来たからには管理栄養士として一人前、それ以上に成長して、今の思いを忘れることなく、ここでしか経験できないような充実した大学院での生活を送っていこうと思ひます。

### 新入生としてのご挨拶

大学院：  
博士後期課程1年  
中村 順子



この4月から初めて青森の地に通って勉強させていただくことになりました中村と申します。私が看護教育を受けたのは、学部も博士前期課程も聖路加看護大学でしたので、今回初めて看護を聖路加以外の大学で学ぶことになりました。どきどきの初体験ですが、本学が地域に根ざした興味深い研究を数多くおこなっていることを知り、かならずや私の期待に答えてくれる場所であることを確信しております。

と申しますのも昨年10月から私は生まれ育った秋田で、長い実践現場から離れ看護教育に携わっております。秋田の看護学生と共に学ぶことはもちろんですが、秋田に貢献できる研究や実践活動は何か、これから模索し実行したいと考えています。そのようなこともあり、本学を受験させていただきました。秋田と青森の往復の間に様々な自然に触れたり温泉に立ち寄りたりすることも楽しみのひとつで、その理由もあったのですが、ぜひ、今後ともよろしくお願ひいたします。

## 新入生の皆さんへ



看護学科3年  
三浦 崇

新入生の皆さん、大学生活にはもう慣れましたか？私は3年生になりましたが、大学生活がもう2年も過ぎたんだと感じました。新入生の皆さんの中にも、もう入学してから2ヶ月が過ぎたんだと感じている人もいますかと思っています。

私が新入生の皆さんに伝えたい事は、時間を有効活用して欲しいという事、そして切磋琢磨し合える仲間を持って欲しいという事です。大学での4年間はあっという間に過ぎていきます。限られた時間を何もせずただ過ごすか、目的を持って行動するかは自分次第です。目的を持って行動し、「悔いのない充実した4年間だった」と胸を張って言えるように時間を活用して行って下さい。また、切磋琢磨し合える仲間を持つ事はこれからの大学生活の上でとても大切です。切磋琢磨し合える仲間がいる事は、自分にとっても、仲間にとっても必ずプラスになります。そのような仲間と一緒に過ごし、様々な感情を共感し合い、助け合い、刺激し合いながら、成長して行って下さい。

看護、理学療法、社会福祉、栄養は全て医療福祉の場で活躍できる専門職です。それぞれの分野で、貧欲さ・向上心・目標を持って日々の生活を大切に過ごして行って下さい。

## 新入生の皆さんへ



理学療法学科3年  
佐々木 沙織

5月も終わり、新入生の皆さんも大学生活にだいぶ慣れてきたことでしょうか。一人暮らしをはじめ自由を感じている人、寂しいと感じている人いろいろいると思います。私自身も3年前入学したとき、何度もお母さんのご飯が恋しくなりました。

大学生活というと、朝はゆっくりで、友達と遊んだり、サークルに参加したりと高校よりゆっくり自由に過ごせたらと思う人が多いと思います。しかし、医療系の大学ではそうはい

きません。1年生はまだ忙しさを感じていないかもしれませんが、後期、2年生から課題や授業の忙しさで大変さを思い知らされるはずです。でも忙しいからというのを理由にしてやりたいことを諦めないでください。おしゃれでもサークルでも遊びでも勉強でもやりたいことはすべてやってください。時間を自由に使うことができるのも多少無理ができるのも学生のうちだけです。余裕はあるのではなく造るもの。後悔しないようにめいっぱい楽しんでください。

そして大学での目標をつくってください。私はハンカチ王子の専属PTをめざして日々がんばっています。人に笑われてしまうくらいでいい目標をもって大学生活を過ごしてください。

## 大学生活で大切なものとは？



社会福祉学科3年  
棟方 春菜

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい生活には慣れてきましたか？

私が皆さんに伝えたいことは、この大学生活の中でたくさんの友達をつくり、様々なことを体験してほしいということです。

共に笑い、信頼しあえる友達がいれば大学生活は絶対に楽しくなると思います。これからの4年間、楽しいときも、苦しいときもあると思います。そんな時に支えあい、気持を分かち合える友達がいることは本当に心強いです。お互いに切磋琢磨し、高めあえる友達をたくさんつくってください。大学生活では、学業ではもちろん、学業以外でも貴重な体験をすることができるチャンスがたくさんあります。講義、現場実習、大学生ならではの長期休暇、サークル、アルバイト、恋愛など他にもたくさんあります。しかし、自分から行動しようとしなければ何も始まりません。良くも悪くも自分次第。悩むことも多々あるかもしれませんが、まずは思い切って何事にも挑戦してみてください。何か得るものが必ずあるはずですよ。大学生活は一度きりですよ！

大学生活の4年間は、長いようで本当に短いものだと思います。皆さんが楽しく充実した大学生活をおくることを祈っています。



## 新入生の皆さんへ

編入学生：  
看護学科4年

長尾 こゆる



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生活は慣れましたか？新しい土地に来て新生活を満喫している人もいれば、家族と離れ少し寂しさを感じている人もいないでしょうか。私も北海道で一人暮らしをしていた3年間は、慣れるまで毎月のように実家に帰っていたり、実習など辛く泣いた毎日もありました。

専門学校と大学生活のどちらも経験できた私から皆さんに伝えたいことがあります。専門学校より大学は、環境や設備がとても充実しています。調べたいことをすぐ調べられ、更に各専門分野に詳しく研究をしている先生方が的確に指導してくれることで、問題は未解決になりません。また、サークル活動やボランティア活動も盛んで、他学年他学科との交友関係が深まり、生活に楽しみや張りが出てくると思います。

皆同じスタートです。これから乗り越えなければならぬ壁は沢山出てくると思いますが、友人と助け合い、他の大学や学校では経験出来ないことをこの4年間で沢山経験して下さい。また、大学にあるものを有効に活用し、充実した大学生活を送って下さい。

## 大学院生になる、ということ

大学院生：  
博士前期課程2年

庭田 幸治



私は大学院に対して、期間限定の義務と権利を獲得している、と捉えています。社会人院生の常として、学業と仕事の両立は確かに大変であり、遠距離通学も楽ではありません。しかし、一度キャンパス内に入ればその瞬間に社会人から学生へと身分が変わります。もちろん、科目の履修や修士論文の作成など種々の義務が発生しますが、同時に得る権利は大変な価値があると考えています。

院生室の机に向かったり、図書館で調べ物をしたりといった、20年近く前の大学生時代の生活

が懐かしくもあり、また学部生さんの頑張りに過去も自分の姿も重なり、気持ちが若返ります。また、そういう時間を持たせてくれる会社や家族に感謝する気持ちも新鮮です。

修士論文という1つのことをまとめ上げれば、再びこの義務と権利は失うこととなります。そう考えると惜しい気もしますが、この期間に得た経験は一生失うことなく仕事や地域での生活に生かしていけると確信しています。

新入生の皆さんも入学によって得た権利と義務を最大限活用するにはどうしたらよいか考えれば、これからの2年間は思った以上に短い期間となるのではないのでしょうか。

## 振り返りの日々 ～既知の枠組みから 未知との遭遇を求め～

大学院生：  
博士後期課程2年

工藤 英明



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

私は学部を卒業して10数年間臨床の現場で経験を積みました。そして、自らの実践を振り返り、再び学びなおしたいとの内的動機づけからその機会を得ることができました。

研究を続けることは、自分自身にどこまでこだわり続けることができるか、といった自分との戦いの部分が大きなシェアを占めます。それは社会人としての時間的な制限はもちろん、体力・能力・努力過程といった部分の影響です。また研究テーマに向かいあえば、研究の新たな課題に気づくことで思考が拡散し、いつまでたっても思考は収束に至らず、焦点化できない自分に気付かされます。既に知っている、明らかになっていることを基に、未だ知られていないことを深く狭く探究し、自問自答することは、研究の基本ともいえるのですが、どうしても長年染み付いた浅く広くのスタイルから抜け切れていない点を日々指摘されています。しかしながら結果としての形より、自らのテーマを追い続ける過程を大切に、この学ぶ機会を活用していきたいと考えています。新入生の皆さん、どうぞ私の過ちを参考に、自らのテーマと真摯に向かいあい、自分自身が納得した結論と学生生活を送られることを期待します。

## 新入生研修

新入生研修教員実行委員長  
栄養学科・人間総合科学科目  
スコット ヴェスティ



今年4月11日に新入生研修が開催されました。開学以来昨年まで二日間にわたって、学外での合宿研修が行われましたが、栄養学科の新設、理学療法学科及び社会福祉学科の入学定員増員に伴い、学外の宿泊が困難となっており、今年度以降宿泊なしで、学内施設を利用して、研修をすることとなりました。今までの日程から一日減ったことにより、プログラムを再検討し、実行委員の協力により充実したプログラムを作成することができました。

午前には、学科別オリエンテーションと交流会が行われ、昼食後は、学長・学生実行委員長の挨拶等、そして学外参加者の青森警察署生活安全課、消費生活センターと青森市清掃管理課の説明がありました。その後、上級生の各サークル紹介もありました。最後に、体育館でレクリエーション

大会が開催されました。上級生のリードのもと和気諸々と進行し、楽しんだようです。特にラジオ体操は大爆笑の中で終わり印象的でした。

新入生の相互交流、上級生・教職員との交流という当初の目的は達成できたのではないかと思います。この交流をもとに充実した学生生活を送れることを願っています。

最後になりましたが、新入生研修にご協力頂きました教職員の皆さん、そして何よりも中心となって研修を運営して頂きました学生実行委員の皆さんに感謝を申し上げます。



## 栄養学科が加わって

新入生研修学生実行委員長  
理学療法学科3年  
廣田 智弘



平成20年度の新入生研修会は4月11日に行われました。今までは岩木青少年スポーツセンターで行っていましたが、今年から栄養学科が増設され、人数が増えたこともあり、大学構内で行うことになりました。

朝9時から午後5時まで学科別オリエンテーションに始まり、学科別交流会、学科別の昼食会、その後講堂に集まり学長の挨拶など、サークル紹介、体育館で全体交流（レクリエーション）を行いました。

新しくできた栄養学科は、上級生がいないので栄養学科の教員と相談しながらの学科別交流

会でした。上級生は栄養学科について分からないので、交流会では学生生活中心の話になってしまい、栄養学科の新入生には満足のものではなかったのかなと反省しています。





昼食会ではお弁当が美味しかったとお弁当が好評でした。一部でお弁当が足りないということがあったみたいですが、何とかあったみたいです。

サークル紹介では、各サークルが思い思いのステージ発表を行いました。途中ハプニングもあったみたいですが、1年生のアンケートの集計結果によると、おもしろかった、舞台発表がどれも魅力的で楽しかったなどの意見をいただきました。一方、全サークルを紹介して欲しい、各サークルの人数や参加方法などが知りたいなどの意見をいただきましたので、今後の参考にしたいです。

全体交流のレクリエーションでは、上級生が頑張ってくれました。ゲームの前のラジオ体操では白鳥の衣装を着た上級生が緊張していた体育館内をリラックスさせてくれました。また、クイズでは各グループの上級生が中心となって楽しんでいました。皆で参加した最後のゲームでは各グループが協力し合って、タイムを競っていま

した。1位には優勝商品が出るということではりきっていたグループも多かったのではないのでしょうか。気になったのが、体育館は内履きをはくということを皆さんお忘れのようだったので、今後は気をつけたいと思います。

今回、自治会も初めて学校で研修会を行って、至らない点がたくさんありました。グループ分けや名札作り、ゲームの考案など手探り状態で、研修会が始まってしまってから準備不足にあわて、1年生や上級生のアンケートの集計結果を読んで反省すべき点が多々ありました。しかし、1年生のアンケートの集計結果を読んで、楽しかった人、上級生と交流できたという人がいたので、研修会を行ってよかったと思うことができました。今後の研修会等に今回の経験を役立てていこうと考えています。



## オーストラリア 3 週間の旅 — 異文化生活の中で —

看護学科 3 年 大久保 恵理



前列中央

いきなりですがみなさん、コアラの寝方はだらしがないということを知っていますか？教会での集会はボランティアの方がバンドを組んでライブのように楽しい雰囲気始まり、神父さんは「この前、息子が僕の車にきずをつけたんだ」なんて世間話のような話を、聖書を活用しながら楽しく話すということを知っていますか？オーストラリアは水不足なので水を大切にしているシャワー浴は1回5分くらいで済ませなければならぬということを知っていますか？

ここであげたものは、私がオーストラリアに行って驚いた数多くの中の一部に過ぎませんが、オーストラリアでの3週間は、毎日が新たな発見との出会いでした。英会話という大きな不安を抱えながらの旅立ちでしたが、ホストファミリーやたくさんの国から集まったクラスメートと接する中で徐々にその不安はなくなっていき、不安よりも文化の違いを発見・体験することが楽しくなっていました。慣れない異文化の中では大変なこともありましたが、放課後や休日はみんなで観光名所をまわったり、ホストファミリーと一緒に買い物に出かけて日本食を教えながら一緒に作ったり、思い出すことは楽しいことばかりです。

3週間の中で、一番印象に残ったことは、1

年に1度開催されている同性愛者の祭り Mardi Gras です。もしもみなさんが街中で同性愛者のカップルを見かけたら、偏見までとはいかずとも少し注目してしまいませんか？日本社会では同性愛という考えが浸透しにくい状況であるにもかかわらず、Mardi Gras では多くの同性愛者が堂々と楽しそうにパレードに参加し、観客たちも彼らを非難することなく、同性愛者もそうでない人も一体となって楽しんでいました。今回 Mardi Gras に参加し、同性愛者への偏見について考えさせられましたが、同性愛者以外にも社会には沢山の偏見が存在します。私は看護師を目指すものとして個々人の個別性を理解し尊重していかなければならず、その必要性を実感する良い機会となりました。

多くの方が日常生活の中に『当たり前』という考えを持っていると思いますが、それらは本当に当たり前のことなのでしょう。角度を変えて物事を見たり異文化に触れてみたりすることによって、視野を少し広げてみると新たな発見が得られると思います。『当たり前』の生活から抜け出して視野を広げたいと思った方、…いってらっしゃい!!

## オーストラリアの母へ

理学療法学科 3 年 笹代 純平

オーストラリアの旅のなかで一番忘れられない人、それはやっぱりジーンです。ジーンはかわいいブロンドの…、おばあさんです（写真左）。僕はその、日本人というなら美輪明宏によく似たかなり大きめのホームマザーのおばあさんと、3週間の生活を送ってきました。そこは、禅寺のようなところで、晩御飯は決まって夕方6時までに（オーストラリアのこの時期の日没はこれよりはるかに遅い）、洗濯物は週に1度（あいにく僕はトランクスを6枚しかもっていかなかった。当然オーストラリアも1週間イコール7日間。てことは…??）、シャワーは4分間（適温のお湯が出るまでに2分はかかる。覚悟を決めて冷水シャワー）、というサバイバル生活をしてい

ました。今までも数多くのホームステイを受け入れている彼女は、「No！！」とは言えない日本人の性格を熟知しているらしく、次々と新たな指令を僕に出してきました。唯一の戦友である同居人のスイス人のお兄ちゃんも、ついには耐え切れなくなり僕の知らない間に引っ越してしまいました。

そんなとってもかわいいジーンですが、いいところを挙げればこれもまたキリがないんです。帰るのが遅くなりそうだと電話をかけたときは「3週間しかないんだから、いっぱい楽しみなさい」と言ってくれたし、同性愛者のお祭り Mardi Gras を毎年密かに楽しみにしてるし、僕のことをずっと“コンピュータ関係の大学生”だと思ってたし、ほんとに挙げればいくらでもでてくるんです。けど何よりも心に残っているのは、日本に帰る前夜、僕が荷造りをしていると、「夜食でも食べる？」と言ってパンを焼いてくれて、一緒にパンを食べたときのことです。

「あなたは本当に礼儀正しい子だった。日本に帰ったらお金を貯めてまた来なさい。そのときは部屋は空けておくわ。」これは何よりもうれしい言葉でした。

そのほかにも、クラスメイトの金持ちな日本人の話、オーストラリアのおいしいビールの話、ビーチにはトップレスがいっぱいだっていう話、書きたいことはたくさんありますが今回はこの辺で。興味のある人は行けばわかるさ。



## 地球市民としての交流を！

国際科長 深谷 智恵子

国際科は、今年度の組織再編により、地域連携・国際センター、国際科となった。

中期目標を「国外の教育研究機関と連携により、多様な教育研究活動を推進し、ひいてはこれらの教育研究成果が地域貢献に資することを念頭に、より充実した国際交流を行う」としている。そして、中期計画を5項目挙げて活動中である。①国際交流関係機関・団体等との意見交換を行うこととし、地域特性や本学のこれまでの活動を活かした国際交流促進を図るために、国際交流関係機関・団体等との意見交換を行うとした。②公開講座や講演会などを開催することとし、学外組織等と協力しながら、国際的な視点から本学の特性を活かした公開講座・講演会などを開催するとした。③海外の大学等との教育機関との国際交流を推進することとし、韓国の仁済大学、米国のベレノバ大学との国際交流を推進するとした。また、さらに、フィリピンのSWU(サウス・ウェスタン大学)との交流についても検討中である。④国外での国際的活動に教員・学生が携わりやすいシステムを検討していくこととした。⑤留学生、海外研修院への就学支援する仕組みづくりとし、その仕組みを検討している。これ等の中期計画に対し今年度の活動計画を上げて実施に移している。

5月21日(水)には、音楽と映像を通して、世界各国の難民キャンプや被災地の人々への医療活動を伝えている桑山紀彦氏による公演、地球のステージが行われた。本学の学生・教職員だけではなく地域住民、近隣の高校生が多数参加し会場は感動の渦で沸いた。

国際科の活動は、これからが本格的で、ベレノバ大学や済仁大学との交流、学生や地域住民と異文化コミュニケーションを楽しむ目的で、あおもり地球市民講座などを予定している。



地球のステージ 桑山氏

人間総合科学科目 特別講義

講師：内藤 敦 氏  
(株)青森銀行 取締役総合企画部長

テーマ：「社会人への視点」

Wednesday 12th December 2007

The guest speaker at this year's Ningen Sogo Special Lecture came to us from the world of business. Mr Atsushi Naito is a Director of Aomori Bank, and currently holds the post of Director of Planning. He joined Aomori Bank after graduating from university in Tokyo, and has wide experience of working practices, business etiquette, and commercial activity in Aomori Prefecture and beyond. Amongst the senior posts that he has held at Aomori Bank, he was until recently Personnel Director, responsible for the recruitment of new staff to the bank, and in this role he came into contact with many young people starting out on their careers.



Mr Naito has many interests and believes in the value of rich and varied experiences. He takes a broad view of education, and shares many of the values which Ningen Sogo aims to pass on to our students.

Mr Naito's lecture took place on the morning of 12th December and despite bad weather on the day, it attracted a good audience of 140-150 people. Extra copies of handouts were hurriedly prepared before the lecture began.

Mr Naito spoke about a range of topics relating to the role of our students as active and responsible members of society. He began with society itself, presenting a detailed review of aspects of the current situation in Aomori Prefecture. He explained important changes in the economic and social environment which affect the lives of all of us. He went on to talk about personal values, and explained what a thriving society needs and expects from its members. He encouraged the audience to think about how each of us can become useful and active members of society.

This lecture was a good balance of factual information and personal reflection, based on a wealth of experience. The attentive audience clearly appreciated Mr Naito's advice, and came away both informed and challenged by what they had heard.

## 学生自治会紹介

自治会長(理学療法学科3年) 廣田 智弘

学生自治会役員選挙によって選出された自治会役員9名及び4月に入り選出された各種委員長3名によって学生自治会及び本部会は組織されています。ここで本部会役員を紹介します。自治会副会長は葛西麻由子さん(社会福祉学科3年)、熊澤芽葉恵さん(看護学科2年)、書記は山口峰君(看護学科2年)、秋田恵さん(理学療法学科2年)、会計は高見早紀さん(看護学科3年)、小山内直子さん(看護学科2年)、庶務は桑田侑衣さん(理学療法学科2年)、柳川美里さん(社会福祉学科2年)以上が自治会役員です。選挙管理委員長は足立悠貴君(理学療法学科2年)、サークル代表委員長は後藤悠人君(理学療法学科3年)、大学祭実行委員長は熊野晶子さん(理学療法学科3年)です。僕を含めた自治会役員・各委員長の12名及び安田勉先生を中心として自治会活動を進めていく予定です。

今年は、理学療法学科、社会福祉学科の定員が増え、新たに栄養学科が設立されたため学生数が増え、より活気が湧いています。そんな中で、僕たち自治会は、学生主体の大学生活を送ることができるようにするため、各種イベントの企画・運営や学生総会、HPの更新などの活動を行っています。そういったこと活動を通じて、学生同士の交流や大学外の地域の方々との交流を深めていきたいと考えています。

学生の間にはしかできないことや学生だからこそ感じることができることなど、今しかできないことはたくさんあると思います。学生みんなでの保健大学を盛り上げて、充実した学生生活や地域の活性化を促進できるような活動を進めていきたいと考えています。



## 「めいと」サークルです！

代表 社会福祉学科3年 松澤 未央



みなさん、こんにちは!「めいと」とは、簡単に言えば、自分で興味のあるボランティア活動を選んで参加するサークルです。これまでに児童、障害児・者、高齢者関係のボランティアや献血呼びかけなどの多くのボランティア活動に参加してきました。

昨年の活動報告から具体例を挙げますと、①献血キャンペーン、②特定非営利法人「ふうあの会」で障害を持った児童とふれあいや作業のサポート活動③「テディ」での障害を持った児童との交流活動④青森県障害者スポーツ大会での大会に出場する選手の方へのエールとして、応援ダンスを披露⑤高齢者の買い物ツアーへの付き添いなどです。ここでは紹介し切れませんが、他にもいろいろなボランティアに参加しています。

次に、めいと内でのスタッフとメンバーの2つの役割についてお話します。めいとに登録している学生を大きく2つに分けると、スタッフとメンバーになります。スタッフとは、依頼されたボランティア情報をめいとに登録している学生全員にメールでお知らせし、ボランティア活動に参加を希望する学生には、依頼者の方から来たより詳しい情報(集合場所、持ち物、日程など)をそのつど伝えていきます。めいとに登録している学生と、ボランティア依頼者をつなぐ連絡調整の役割をし、学生がもっと気軽にボランティアを行うことができるように活動するのがスタッフです。メンバーは、スタッフから送られてきたボランティア情報の中から自分の興味のあるものだけを選んで参加することができます。もちろん、スタッフもメンバーのように依頼されたボランティアの中から自分の興味のあるものを選び、参加することもできます。スタッフ、メンバーとも、希望があればいつでもなることができます。めいとに入れば、ボランティアを通して得られるものがいっぱいあると思いますよ。めいとに興味を持った方は、[mate\\_auhw2002@yahoo.co.jp](mailto:mate_auhw2002@yahoo.co.jp)まで連絡をお願いします。

## 第6期生の就職・進学活動を振り返って

就職対策委員会

平成20年3月、本学第6期生が社会に巣立っていきました。就職状況は1～5期生同様に高い内定・就職率を達成・維持することができました。

学生への就職活動サポートは本委員会を中心に全学体制で取り組み、主に次のような支援事業を行いました。

- 1 県内外の病院・社会福祉施設等に対する就職用パンフレットの配布及び求人票の提出依頼
- 2 学生と事業所人事担当者との直接面談による就職合同説明会の開催
- 3 模擬面接や小論文添削指導の実施
- 4 学内公務員試験対策講座の開設

大学としては本委員会を中心に、3学科と密に連携を執りながら各学科の特性に配慮したより実効性のある就職対策を打ち出し、第7期生への就職支援を進めていきます。

## 〔第6期生の進路状況 単位：人、％〕

( ) 内は、前年実績

学 科	卒業者数	進学者等数	就職希望者	就職者〔うち、県内就職者〕	就職率
看護学科	109	4	105	105 [34]	100.0 (99.0)
理学療法学科	21	2	19	16 [9]	84.2 (100.0)
社会福祉学科	41	2	39	37 [27]	94.9 (92.9)
合 計	171	8	163	158 [64]	96.9 (97.5)

## 看護学科における就職支援

看護学科准教授 藤本 真記子

## 1. 6期生の状況

看護学科卒業生の就職率は、毎年ほぼ100%です。しかし、4年次後期に卒業研究論文の作成や国家試験が控えているためか、就職だけでも早く決めたいという思いが強くなるようで、採用試験時期が早く、選択肢の多い首都圏の病院へ就職する方が多くなっている現状です。「本県の保健医療福祉の進展に貢献できる人材の育成」という本学の教育理念から見ると、少々残念な状況です。

## 2. 学生への支援体制

4年生にとってはもっとも身近な関わりを持つ卒業研究担当教員が、個別に助言や指導をしています。また、就職対策支援チーム（学部就職対策委員1名と学科の教員4名で編成）では、卒業研究担当教員と連携をとりながら、情報提供やガイダンスの開催などを通して全体的に関わっています。たとえば進路希望調査を実施し、学生の希望する就職先や進学先を、それぞれの担当教員に伝えるのはもちろんのこと、県内定着への意識を高める関わりをしていただけるようお願いしています。今後も、青森県就職支援センター講師の協力を得ながら行う就職活動ガイダンスや、低学年向けガイダンスの工夫などの支援を充実させていく予定です。

## 3. 学生の皆様へ

看護職に限ったことではありませんが、就職後まもなく離職してしまう人が増えているようです。それは仕事ができる・できないではなく、自ら問題に向き合い、解決していく精神力のようなものが不足しているのではないかと感じています。どうぞ在学中の今から、私たちの支えを上手に活用し、たくましく羽ばたけるよう、力をつけていってください。（そしてまた、青森に戻ってきてください…。）



## 理学療法学科における就職支援

理学療法学科准教授 山下 弘二

理学療法学科では、平成20年3月までに1～6期生の123名がすでに卒業し、それぞれが全国各地で理学療法士として就職しています。就職の必要最低条件として、理学療法士の国家資格取得があります。就職活動に加えて国家試験対策への取り組みが重要性を増しています。本格的就職活動は、総合臨床実習終了後の4年次7月以降に始まりますが、特に地方公務員の場合は、各市町村のホームページ等で確認が必要であり早めの活動を勧めています。

活動手順として、まず、アポイントメント後、施設見学をしてから、多くの場合は理学療法に関する筆記試験と健康診断、面接試験を受けるという流れになっており、学科としては卒業研究指導教員が、1～2名の担当学生を個別に責任を持って指導に当たっています。その場合、就職活動経過については、学科の就職対策委員を窓口として、学科会議を通して情報交換をした上で、就職対策の方法を議論しています。また、面接試験の受験にあたって、希望する学生については、浅田先生にも協力を頂いて個別指導を受けられる体制を取っています。

6期生の経験を振り返ると、卒業研究発表が終わる年内には、ほぼ全員が就職先を決め、国家試験に向けての学習に取り組んでいます。国家試験対策としては、自主的学習会の支援と10回の定期的模擬試験の実施を行い全員合格に向けての支援を行っています。

平成20年の理学療法士養成校総数231校、合格者数6,924人、合格率86.6%、合格総計65,571人となっています。このように理学療法士の急激な増加に伴って、充足率は年々低下しています。どの産業でもそうでしょうが、労働者の増加にともない需給関係が変化しつつあります。つまり、働きたくても働く場所がないということが現実になりうるということです。そこで、本学の特色である「地域特性に対応できる人材としての理学療法士」の県内外へのアピールや、既に活躍している卒業生の就職先にも採用して頂けるよう、臨床実習施設としての追加登録を推進しており、今後も学科全体で、就職支援を行っていく予定です。

## 社会福祉学科における就職支援について-入学時からの進路指導を目指して

社会福祉学科准教授 増山 道康

社会福祉学科6期生、平成19年度卒業生は、就職・進学希望者41名の内、39名が進学若しくは就職し、決定率は95.1%（就職率は94.9%）で昨年を若干上回りました。また、県内就職率は84.6%で昨年より大幅に増加しています。就職先は、社会福祉施設、病院が主ですが、昨年よりも民間企業への就職希望者が増加しています。結果的には民間企業等へは8人が就職しました。現4年生は更に多くの学生が民間企業等への就職を希望し、既に就職活動を行っています。

社会福祉施設や病院からの求人は昨年よりも増加していますが、病院ワーカーについては、社会福祉士や精神保健福祉士という国家資格取得を条件にするところがほとんどでした。これは診療報酬改定が大きく影響しています。幸いに内定者で国家試験不合格者はおらず、全員が就職できました。

これまでも学科内に就職支援委員会を設け、学科教員全員で就職相談、指導にあたってきました。昨年からは、取組みを強化し、ジョブカフェ青森との連携のもとに2年生から就職ガイダンスを行ってきました。今年度は、1年生から就職ガイダンスを行い、全ての学年で進路指導に取り組めます。繰り返しになりますが、進路希望がいわゆる福祉分野に留まらず多岐にわたってきています。こうした学生の変化に応じた取組みを行っていきたく存じます。

エントリーシートが昨年までとはかなり変化し、企業や行政からは管理能力と専門性を併せ持つ人材が求められています。また、社会福祉施設や病院でも国家資格取得を要求されることが多くなっています。更に、来年度からは社会福祉士取得に科せられる試験科目が増加します。こうした点を踏まえ、より社会福祉の専門性を高めるためのカリキュラム改正も検討しています。同時に、入学時から卒業後の進路を見据えた学習や将来設計ができるよう就職に関する啓発や個別の進路相談を充実させ、一人一人にあったきめ細かい支援を目指します。

## 第6期生卒業記念パーティーについて

卒業関連実行委員(社会福祉学科4年) 森竹 絢香

平成20年3月19日、青森市内にある青森国際ホテルにて、第6回卒業記念パーティーが開催されました。卒業記念パーティーには、卒業生や先生方、関係者の皆様等約200名の方が参加されていました。また、卒業生は、卒業証書学位記授与式での袴姿とは違うドレス姿で出席される方が多く、華やかで盛大なパーティーとなったように思います。

卒業記念パーティーは、18時から20時という2時間で、祝辞や花束贈呈、電報紹介、各学科紹介があるなど盛りだくさんの内容でした。その中でも、各学科紹介ではほとんどの卒業生が参加していたということもあり、印象に残っています。各学科紹介では、看護学科と社会福祉学科は合唱を、理学療法学科はスライドショーを行っていました。途中涙を浮かべる先輩方もいて、10分の紹介時間では語りつくせないたくさんの思い出が4年間の学生生活を通してできたのだということともに、先輩方の4年間の絆の深さを感じました。

多くの卒業生は当日参加するだけという方ですが、卒業関連実行委員長を務めていた社会福祉学科の佐藤香さんを筆頭に、各学科の有志が卒業関連実行委員として卒業記念パーティーの企画をしたり、準備を進めたりしていただきました。卒業記念パーティーは、学生主体で企画・運営を進めるため、卒業関連実行委員は卒業研究や国家試験、就職活動などの忙しい合間を縫っての活動をしていました。また、私たち在校生も、事前打ち合わせへの参加をしたり、卒業生へのメッセージを模造紙に張ったり、パーティー当日には司会や受付などのお手伝いをしたりさせていただきました。私たち在校生としても、この卒業記念パーティーに関われたこと、また、先輩方とともに卒業記念パーティーを成功させることができたことを大変嬉しく思います。

卒業記念パーティーは、卒業証書学位記授与式と並ぶ学生生活の締めくくりとなる大きなイベントです。4年間の学生生活を思い出しながら話をしたり、写真撮影をしたりして楽しむのはもちろんのこと、これから別々の場所で活躍していくスタートとしても大切なものなのだと感じました。



## 大学生生活を振り返って



三上 春香

看護学科H20年3月卒業

保健大学を卒業し、私は現在、青森市内の病院で助産師として勤務しています。就職してはや2ヶ月が経ちましたが、日々、自身の勉強不足や技術の未熟さを痛感しながら業務をこなす毎日を送っています。

大学生生活を振り返ってみると、もっと様々な経験や勉強をしておけばよかったと、後悔の念でいっぱいになります。知識はもちろん、技術に関しても、実習期間中に見学したり、体験できたりしたものが数多くあったのではないかと思います。

実習期間中は、受け持ちの患者様のことばかり考えてしまい、他の患者様のケアを体験したり、考えたりする余裕はないと思いますが、いろいろと経験した方が自分の身になると思います。

大学では、学生だからこそできる経験がたくさんあります。自分がどれだけ看護についての知識を身につけ、それを生かせるか、また勉強だけではなく、4年間という限られた時間の中での貴重な経験から、何を考え、感じ取ることができるのか、そういったことを心に留め、有意義に大学生活を過ごしてください。

## 卒業した今思うこと



伊藤 和哉

理学療法学科H19年3月卒業

大学を卒業し、私は現在青森市で理学療法士として働いています。就職してから一年が過ぎたばかりですが大学生の頃が懐かしく思えます。

大学生生活を振り返って思い出されるのは、高校までとは違った様々な経験です。自ら学びたい講義を選ぶこと、理学療法に関する専門的な知識を身につけていくこと、臨床実習により現場で働く先生方から学ぶことなど、全てがこれまでと違っていました。大学生活では自ら学ぶことが肝心と言いますが、私はそれだけでは不十分と考えています。私自身実習中や卒業研究、国家試験のため

課題に追われ、睡眠時間を削られて精神的にまいってしまっていたことがありました。そうした困難を乗り越えられたのは、同じ環境で苦しみを共にしたクラスメートや頼りになる先輩・先生方の存在があったからだと思います。一人の力ではどうにもならない場合があっても、皆で協力しあえば無限の可能性を秘めていることを知らされました。

大学では高校までと違い、飲み会やバイト、サークルなど様々な交流の場面があります。ぜひともそうした機会を生かし、学科や学年にこだわらずに信頼できる仲間を作って下さい。それぞれが有意義な大学生活を過ごす秘訣だと思います。

## 大学生活



佐藤 菜津美

社会福祉学科H20年3月卒業

大学を卒業し、社会人となって3ヶ月目に入ろうとしていますが、大学生気分が完全に抜け切れているとはいえないながらも、私は、社会人として仕事を懸命にこなす日々を過ごしています。ついこの間まで学生として在籍していた、保健大学での4年間の大学生活は、とても貴重な時間であったことを卒業後の現在、さらに痛感しています。

大学生活では、社会福祉分野における専門的な学びはもちろんですが、大学内の先生や友人、現場実習やボランティア活動などの人間関係から学ぶことが数多くありました。特に大学生活を共に過ごした友人の存在は大きく、互いに励ましあいながら、現場実習や試験などで辛い時に乗り越えることができました。また、友人の考えや行動に多くの影響を受けたことで、人間的に成長できた実感しています。

大学生活では、思っているよりもあっという間に日々が過ぎてしまうので、時間を惜しんで関心のあることを学んでもよいと思いますが、それほど関心のない事柄でもある程度、知識があった方がよいと思います。学生時代では、それほど重要性がないように思える事柄も、後々になって、思いがけずその知識が必要となったりするからです。

貴重な大学生活を有意義に過ごして、悔いのないように過ごして下さい。

## 修士論文公開発表会

研究科委員会 藤井 博英

平成19年度「修士論文公開発表会」が、平成20年2月18・19日の両日、教育研究A棟 大講義室A1(A101)で、博士前期課程修了予定者18名により行なわれました。

発表分野の内訳は、地域保健福祉学分野5題(精神保健学領域4題、地域高齢者保健学領域1題)、理学療法学分野3題(運動生理学領域1題、機能障害・回復学領域2題)、生活健康科学分野2題(健康・栄養ケア領域1題、環境保健学領域1題)、看護学分野8題(看護マネジメント領域3題、高齢者・リハビリテーション2題、小児家族看護学領域2題、周産母子看護学領域1題)であった。発表テーマは、ケアに関する研究、健康の維持・増進に関する研究、保健に関する研究、マネージメントに関する研究など多様であった。

発表時間は質疑応答を含め1人あたりの持ち時間30分(口頭発表20分、質疑応答9分、交代1分)の短い中で、これまでの研究成果についてのプレゼンテーションを行いました。そのプレゼンテーションは、①自分の伝えたい情報が正確に伝えられ、②自分の伝えたい情報が相手に理解されやすい形式と内容になっており、③少ない労力で必要な情報が十分伝えられていた、いわゆる Keep it simple and specific. の内容であった。

「修士論文公開発表会」の質疑応答も活発に行なわれた。質問内容は、発表内容の根拠(裏づけ)や分析方法や結論の妥当性を打診するもの等々でありました。

質問に答える院生も自らの考えを素直に述べ、教員や他の院生からのアドバイスや評価を真摯に受け止めていました。

自らの研究成果は、人前に出て、評価してもらえて初めて研究といえます。したがって院生は、紙上や学会などの機会を逃がさず研究発表をし、いろんな視点から評価してもらうことが必要です。そのことで、自分の研究を深めたり、他の人の研究成果を聴いたりして、自分の視野を広げましょう。研究は公表されてこそ、同じ分野の人々と、意見を交換し合ったり、互いに啓発し合うことができます。結果を共有して、応用していくことで科学技術の向上や社会の発展へと寄与することができると思います。

## 大学院新入生ウェルカムパーティー開催

健康科学研究科 生活健康科学分野 食生活科学領域 博士前期課程2年 柏倉 大作

去る4月4日(金)に本学大学院の新入生17名(博士前期課程13名、博士後期課程4名)が入学されました。そして、4月8日(火)には新入生16名、在校生21名(博士前期課程12名、博士後期課程9名)、教職員17名による新入生ウェルカムパーティーを開催致しました。

在校生のうち、博士前期課程2年の李荔さん、張恩美さんの三名で前日の月曜日からパーティー会場となる本学C棟1階コミュニティホールの飾り付けやテーブルセッティングを行い、当日を迎えました。

松江研究科長のご挨拶で始まりました。挨拶の中で、「研究はやっただけではだめです。やったことを論文としてまとめてレフリーのある雑誌にアクセプトされて一段落となるのです」とおっしゃっていました。このお言葉は、新入生には研究者として基本となる目標を確認できたと共に、在校生におきましても心新たにしたのではないかと思います。

乾杯のご発声を松江研究科長からいただき、お弁当とお菓子を囲みながら、和やかな雰囲気が進められました。領域ごとに分かれたテーブルでは、同じ研究分野の仲間として語り合いました。続いて、新入生の自己紹介、領域ごとの教員紹介が行われ、他領域の教員及び学生を知るきっかけになったと思います。大学院での学習や研究のためには、教員の指導はもちろんのこと、事務局の協力も不可欠です。その事務局からも前田さん、鹿内さんにご参加いただきました。本学の大学院生は社会人が多くを占め、県内外を問わず、遠方からも通う学生がいることから、このパーティーが教員、職員と学生間の情報交換をする良いきっかけになったように思います。

ウェルカムパーティーの主な目的は新入生の入学を祝うとともに、この大学院を支える教員及び職員、学生の紹介ですが、このパーティーを通して、学生それぞれの研究の質を高めるためにすべての領域が一丸となって当るきっかけになれば良いと思っています。

## 2007年度青森県保健医療福祉研究発表会について

研究開発科長 中村 由美子

「青森県保健医療福祉研究発表会」は、これまで青森県立保健大学学術研究集会という名称で3回開催され、2006年度からは現在の名称に変更し、2007年度は2回目の開催となります。今年度は、メインテーマを「保健・医療・福祉を担う人材育成について - いま求められる人材像 - 」とし、県内の保健・医療・福祉の専門家などの研究発表や意見交換の場、そしてネットワーク構築の場への活用を願い、2008年2月15日に開催されました。

口述発表18題、ポスター発表13題、計31題の演題が発表され、また、学内51名、学外101名、発表者17名の計169名の参加のもと、終日活発な意見交換が行われました。

午前中は4人のシンポジストを迎え、メインテーマのもとに次のような内容でシンポジウムが行われました。

- 1) 青森県立保健大学の石鍋氏：教育現場からみた、保健・医療・福祉の発展に寄与できる人材の育成
- 2) むつ総合病院看護局長の船木氏：地域医療連携の経験からみた、行政・教育・現場3者協働の有効性
- 3) 財団法人黎明郷理事長の福田氏：病院職員へのアンケート調査結果から考える、今更ハビリテーション活動で求められている人材像



#### 4) 青森県ソーシャルワーカー協会会長の田中氏：ボランティア活動を通じたコーディネーター育成の重要性

これらに青森県健康福祉部の工藤氏からコメントを頂くなどして、シンポジストと200名近くの出席者により活気あふれる討論がなされ、今後の青森県の保健・医療・福祉の方向性について深く考えさせられた2時間でした。

午後からは2会場に分かれて口述発表が行われ、自殺予防活動や総合周産期センターにおける保健師の役割、介護支援専門員の仕事に対する意識・実態調査など、青森県における保健・医療・福祉の実践活動や、O157感染事例の発生状況と遺伝子解析、牛乳中の次亜塩素酸の測定など感染や食品の安全に関する話題が発表されました。

会場前の廊下では13題のポスター発表が昼休みの45分間を利用して展示され、多方面にわたる話題が発表され、活発な意見交換がなされました。

今回の発表会を振り返って、青森県保健医療福祉研究発表会が、青森県という地域性を反映した物心両面にかかわる質の高い社会生活の向上を目指した機会と成りうることを昨年度に引き続き確信することができました。

来年度は、本学の特別研究受給者や大学院生の発表の場とし、新聞などのマスコミを通じて発表内容をPRするなど、さらなる発展をめざしていきたいと考えています。



## オープンキャンパスへようこそ

学生募集対策委員会

オープンキャンパスは、本学を志望する受験生がキャンパスを訪問し、カリキュラムの説明や模擬講義、実習体験などを通じて本学を直接体験することにより、本学への理解を深めていただくことを目的に毎年開催しています。

6月22日（日）に開催された今年のオープンキャンパスは晴天に恵まれ、県内はもとより、北海道・東北各県から高校生など約500名の方が参加し、盛況のうちに終了しました。

午前中は、各学科別にそれぞれの会場でオリエンテーションや模擬講義が開催され、熱心に聞いていたようです。昼食は交流センターの食堂を利用する方が多く、麺類や定食など好みのコーナーに長い列ができるなど混雑していました。

午後は、各学科における体験実習のほか、「イングリッシュ・カフェ」やサークルによる演奏会などが行われキャンパスならではの雰囲気を感じていただけたと思います。

このオープンキャンパスを通じて、これからの進路の参考としていただき、多くの受験生が本学に魅力を感じ、受験されることを願っています。



模 擬 講 義



イングリッシュ・カフェ

## 【大学院・学部編入学】平成21年度入学者選抜試験のお知らせ

青森県立保健大学では、大学院及び学部編入学の平成21年度入学者を募集しています。詳しくは、大学院及び編入学の「募集要項」をご覧ください。

連絡先／教務課 TEL 017-765-2144 FAX 017-765-2188 E-mail nyushi@auhw.ac.jp

### 大学院（健康科学研究科博士前期課程・後期課程）

募集人員	健康科学専攻 博士前期課程…………… 20名 博士後期課程…………… 4名
出願期間	平成20年8月18日（月）～平成20年8月22日（金）
選抜試験	平成20年9月6日（土）
合格発表	平成20年9月17日（水）

### 学部編入学（健康科学部）

募集人員	看護学科…………… 10名（3年次編入） 理学療法学科…………… 2名（3年次編入） 社会福祉学科…………… 4名（2年次編入） 栄養学科…………… 3名（2年次編入）
出願期間	平成20年7月22日（火）～平成20年7月25日（金）
選抜試験	平成20年8月23日（土）
合格発表	平成20年8月29日（金）

# 人事異動

## <新任・転入等>



理学療法学科教授  
**神成 一哉** (カンナリ カズヤ)

本職は神経内科医師です。患者さんの診療とともに、パーキンソン病治療薬の作用機序を研究してきました。大学病院以外に青森県内のいくつかの病院で勤務歴があり、青森県の医療問題にも関心があります。



理学療法学科助手  
**福島 真人** (フクシマ マサト)

5年前に1期生として学部を卒業した後に、今度は教員として戻ってくることになりました。私の恩師がたくさんいる中で、自分たちの頃を思い出しながら、学生とともに頑張りたいと思います。



栄養学科教授  
**吉池 信男** (ヨシイケ ノブオ)

研究室の机につくと目の前にひろがる八甲田山。桜の花の散りゆくすがたを惜しみ、今は木々のみどりが鮮やかな季節。滋味豊かな食べものと温泉、そして日本酒。すてきな環境でエネルギーを蓄えつつ、新しい学科の運営や教育のこと、あれこれ思い巡らせています。



栄養学科助手  
**佐々木 万衣子** (ササキ マイコ)

出身は北海道、大学時代は新潟県、この4月からは青森県にやってきました。今度は青森の文化に触れられると大変わくわくしています。微力ながら何かに貢献できるよう努めてまいりますのでどうぞ宜しくお願いします。



看護学科講師  
**梅田 弘子** (ウメダ ヒロコ)

広島県出身で、青森市内の短期大学を経て本学に参りました。青森での生活は4年目になりますが、自然の美しさに癒される毎日です。学生の皆さまとともに学び、自分自身も日々成長していけるよう努力して参ります。どうぞ宜しくお願いいたします。



経営企画室長  
**小野 勝義** (オノ カツヨシ)

今年度からの公立大学法人化により組織、教育研究、財務、人事などあらゆる業務環境が大きく変化していますが、民間的な視点、自主・自律性を持って大学運営に貢献したいと思います。よろしくお願いたします。



栄養学科助教  
**向井 友花** (ムカイ トモカ)

3月まで北海道函館の短大に勤めておりましたが、津軽海峡を渡って対岸の青森に移り住んで参りました。初めてのことも多く戸惑いもありますが、仕事も勉強も生活も楽しみながら充実させていきたいと思ひます。皆様どうぞよろしくお願い致します。



総務課主幹  
**成田 浩一** (ナリタ コウイチ)

2度目の勤務となりますが、全てが新鮮に感じます。どうぞよろしくお願い致します。



看護学科助手  
**佐々木 雅史** (ササキ マサシ)

3年前に認定看護師コースを受講し、いつかまた来てみたいところだと思っていました。自分の机を持つ仕事も初めてです。目下、来て楽しくなるような空間にしようと策略中です。完成したら遊びにきてください。



学生課主幹  
**石岡 俊一** (イシオカ シュンイチ)

開学初年度(11年度)から15年度まで保健大学職員として、主に学生指導と就職対策を担当していました。そして、4年ぶりの復帰…常に、学生の皆さんの目線でモノを考える…4年前と同じです。



看護学科助手  
**佐藤 仁美** (サトウ ヒトミ)

がん看護とチーム医療に興味があります。エビデンスを作り患者さんに安全な看護を提供することが今のところの課題です。久しぶりに青森に戻って自然の美しさを感じました。大自然の中で看護とは何か考えたいと思ひます。



経営企画室主幹  
**齋藤 康道** (サイトウ ヤスノリ)

なかなか慣れないと思いつつ2ヶ月が過ぎ、ようやく慣れてきたと思ったら、仕事が山となっていたことにも気がつきました。がんばります。よろしくお願ひします。



看護学科助手  
**根布谷 綾乃** (ネフヤ アヤノ)

保健大学の2期生として卒業し、その後千葉で助産師として働いていました。母校で働くことができてとても嬉しく思っています。1つ1つの出会いや経験を大切に頑張っていきたいと思ひます。どうぞ宜しくお願いします。



経営企画室主幹  
**佐藤 孝之** (サトウ タカユキ)

広いキャンパスの中で勤務していると、自分の学生時代のことを思い出します。先生方や学生の皆さんと日常的に接する機会は少ないですが、それぞれが充実した生活を送れるようサポートしたいと思ひます。



看護学科助手  
**戸沼 由紀** (トヌマ ユキ)

教職1年生。一人暮らし1年生。毎日めまぐるしく変わる「新しい時間」を、精一杯こなす毎日です。目の前の事柄を一つずつクリアしながら、学生と共に楽しく学んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

## < 転出・退職等 >

出納局 経理課長 神保 和則 (事務局次長から)	(退職) 川村佐和子 (看護学科教授)
上北地域県民局地域健康福祉部 総括主幹 山村 義彦 (企画情報課長から)	( " ) 竹森 幸一 (看護学科教授)
企画政策部統計分析課 総括主幹 田中 寿一 (事務局総括主幹から)	( " ) 大串 靖子 (看護学科教授)
健康福祉部障害福祉課 主幹 工藤 直之 (事務局主幹から)	( " ) 吉村 教暉 (理学療法学科教授)
西北地域県民局地域健康福祉部 主幹 佐藤 正幸 (事務局主幹から)	( " ) 嵯峨井 勝 (人間総合科学科目教授)
健康福祉部高齢福祉保険課 主査 櫻庭 知美 (事務局主査から)	( " ) 赤羽衣里子 (看護学科講師)
西北地域県民局地域健康福祉部 主査 三國 邦和 (事務局主査から)	( " ) 行方かおり (看護学科助教)
企画政策部並行在来線対策室 滝本 大 (事務局主事から)	( " ) 田中 広美 (看護学科助教)
中南地域県民局地域健康福祉部 藤田真理子 (事務局主事から)	( " ) 其田貴美枝 (看護学科助手)

## < 昇 任 >

准教授から教授へ	講師から准教授へ	助教から講師へ	助手から助教へ
理学療法学科 社会福祉学科	看護学科 看護学科	看護学科	看護学科
佐藤 秀一 安田 勉	細川 満子 木村恵美子	清水 健史	杉本 晃子
理学療法学科 栄養学科	看護学科 看護学科	栄養学科	看護学科
岩月 宏泰 佐藤 伸	鳴井ひろみ 鄭 佳紅	井澤 弘美	大津 美香
社会福祉学科 栄養学科	看護学科 栄養学科		看護学科
佐藤 恵子 岩井 邦久	藤本真記子 浅田 豊		山本加奈子
			看護学科
			山本真樹子
総括主幹から地域連携推進課長(図書課長兼務)	石川 順一		
教務学生課長から教務課長	前田 泰三		
主幹から学生課長	井筒 智賢		
主幹から総括主幹	高坂 修一		
主事から主査	松木 心一		

## 編 集 後 記

日本と世界が大きな変動期にさしかかっているなか、本学は今年、公立大学法人への移行と栄養学科の新設という転機を迎えました。本誌前半に収められたメッセージの中には新しい未来への意気込みが込められています。

しかしまた日常はつねに切れ目なく続き、大学に固有の生活と風景はたえず織りなされてゆきます。本誌はそうした活動や行事をも紹介していま

す。これらの記事を通じて大学生生活の一端に触れていただければと思います。

(広報情報委員長 入江良平)

### ◎広報情報委員会名簿

入江良平、坂本祐子、佐藤愛、長門五城、種市寛子、山田真司、小野勝義

### ◎広報情報委員会事務局

赤坂太郎、川上由紀子、伊藤麻起子